



AGCレポート
CSR情報 資料編

2013

目次

AGCグループのCSR	1
組織統治(経営管理)	2
人権と労働慣行	4
環境	10
公正な事業慣行と消費者課題	16
コミュニティ(社会貢献)	19

ビジョンと企業行動憲章

AGCグループ企業行動憲章

(2007年6月1日制定、2012年5月10日改定)

AGCグループは、グループ・ビジョン **“Look Beyond”** において「先を見据え、よりプライトな世界を創る」ことを使命としています。この使命の下、AGCグループは、「より良い地球・社会の実現」に貢献し、社会全体から信頼され、成長・発展を期待される企業となることを目指し、ここに憲章を定め自律的に行動します。

■ 誠実な活動；高いIntegrityをもって

1. AGCグループは、優れた品質の製品とサービスを、安全性と環境へ適切に配慮しながら開発、提供し、お客様の満足と信頼を獲得します。
2. AGCグループは、各国・地域の法令と規制を理解し順守するとともに、国際規範を尊重します。
3. AGCグループは、適正な取引を行うとともに、公正な競争の原則、ならびに適用される全ての法令や規制に準拠して事業を行います。
4. AGCグループは、政治、行政、その他の組織及び個人と健全な関係を保ちます。反社会的勢力とは断固として対決します。
5. AGCグループは、自社の情報・知的財産・資産を適正に管理し保護するとともに、お客様やお取引先様を含む他者の財産権を尊重します。

■ 環境と安全；Environmentを追求して

6. AGCグループは、環境保全を地球市民として必須の責務として受け止め、持続可能な社会づくりに貢献すべく、自律的に取り組みます。
7. AGCグループは、環境に配慮した技術革新・新商品開発の推進と、事業活動における環境保全及び保安防災の継続的な推進に取り組みます。
8. AGCグループは、企業活動に関わる人々に、安全で健康的な職場環境を確保します。

■ 人間尊重；Diversityを共有して

9. AGCグループは、人権を尊重し、各国・地域の文化や慣習に配慮した経営を行います。
10. AGCグループは、人々の多様性、人格、個性を尊重し、人種、民族、宗教、国籍、性別、障がい等にこだわらず、差別のない働きやすい職場づくりを目指します。
11. AGCグループは、強制労働、児童労働を認めず、人権侵害に加担しません。

■ 社会との調和；Responsibilityを果たし、Reliabilityを得る

12. AGCグループは、善き企業市民として、その社会と地域に対する責任を果たします。
13. AGCグループは、お取引先様と相互に有益で適切な関係を築きます。そして、お取引先様の方々とは、その準拠する行動原則が、AGCグループの基本姿勢と矛盾しないよう、ともに努めます。
14. AGCグループは、お客様、地域の方々、株主様、従業員などグループ内外の様々な方々とのコミュニケーションを図り、その声を常時把握するとともに、企業情報を適切かつ公正に開示します。

AGCグループの経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、AGCグループ内に徹底するとともに、お取引先様に対しても協力を促します。また、本憲章に沿った意思決定及びその実施がなされるよう、実効ある社内体制を整備します。本憲章に反するような事態が発生したときには、経営者は自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努め、適切に是正措置と処分を行います。

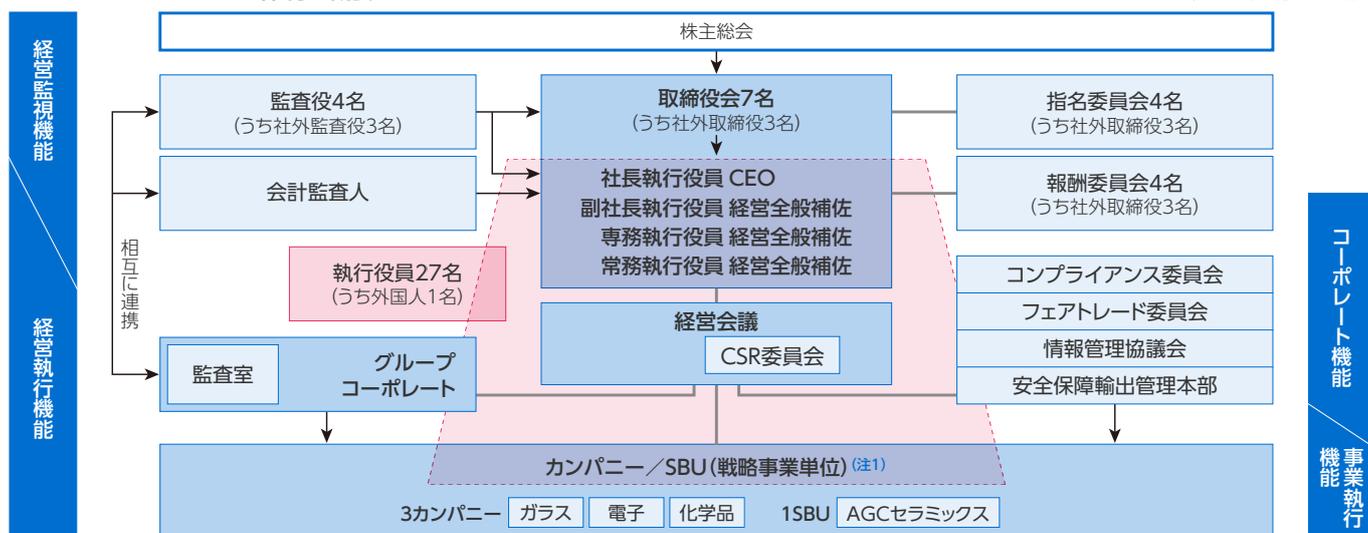
コーポレート・ガバナンス

全取締役の取締役会への出席率

年度	出席率
2010	100%
2011	99%
2012	100%

コーポレート・ガバナンス体制の概要

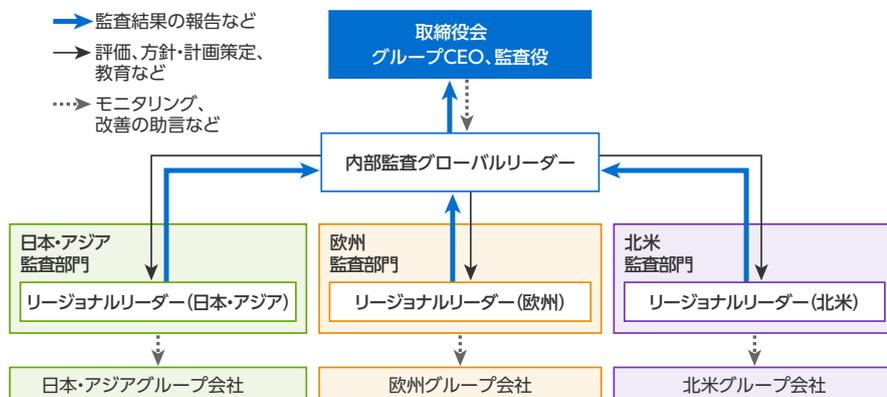
(2013年3月28日現在)



(注1) カンパニーは売上高が概ね2,000億円を超え、グローバルに事業を展開する事業単位と位置づけしており、現在、「ガラス」「電子」「化学品」の3つのカンパニーを設置。それ以下の規模の事業単位はSBU(戦略事業単位:ストラテジックビジネスユニット)として位置づけています

内部監査

内部監査推進体制図

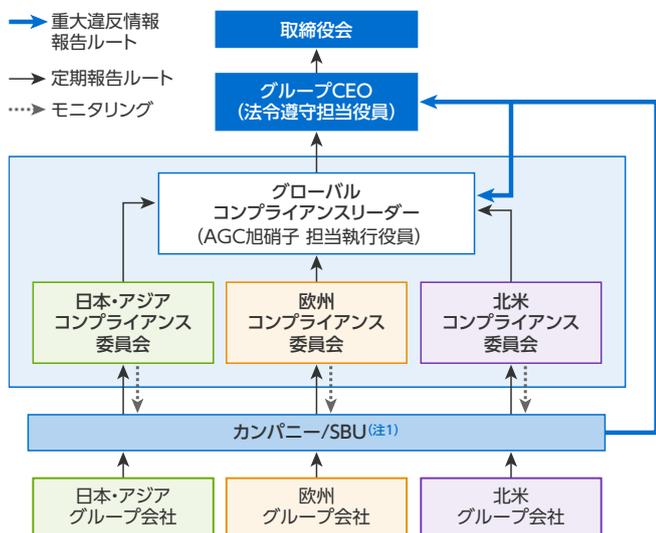


コンプライアンス

AGCグループ行動基準 グローバル共通基準の項目

- | | | |
|-------------------|---------------------|------------------|
| 1. コンプライアンスの基盤 | 6. 製品およびサービスの品質と安全性 | 10. 利益相反 |
| 2. 公正な取引と独占禁止法の遵守 | 7. 報告と記録 | 11. 接待・贈答 |
| 3. 労働安全衛生・保安防災 | 8. インサイダー取引 | 12. 政治家・公務員等との関係 |
| 4. 環境 | 9. 会社および他者の資産と機密情報 | 13. 輸出入管理 |
| 5. 個人の尊重 | | |

グローバルコンプライアンス体制図



(注1) 戦略事業単位(ストラテジックビジネスユニット)

行動基準に関する誓約書の提出対象者

年度	対象者数(カバー率)
2012	約40,000名(81%)

コンプライアンス教育実績

年度	eラーニング教育受講者		集合形式教育受講者(注1)	
	日本国内	北米	日本国内	欧米
2012	約12,000名	約1,200名	約3,200名	約3,400名

(注1) 日本・アジア、欧州、北米においてコンプライアンス委員会事務局が直接実施した教育のみ。グループ各社が実施している教育は含みません

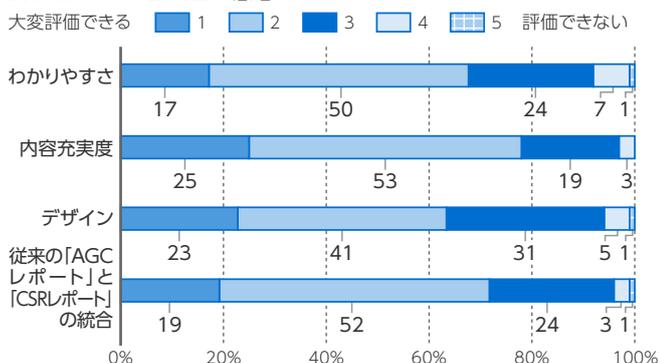
ヘルプラインの相談件数

年度	件数
2012	約550

アンケート・ホームページのご意見

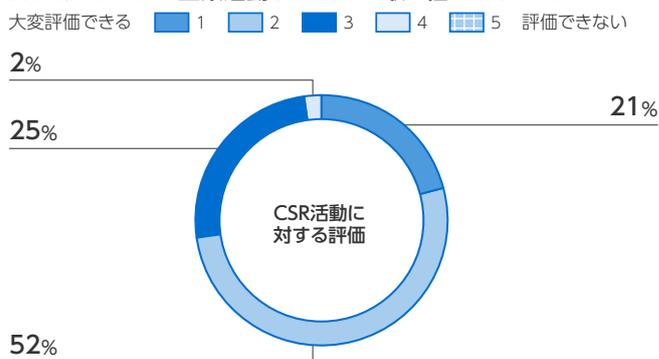
AGCLレポート2012のアンケート:144件(うち海外からのご意見92件)/CSRホームページを通じたご意見:404件

AGCLレポート2012の感想



(注) 四捨五入の関係上、各項目の割合の合計は必ずしも100%にはなりません

AGCグループの企業活動やCSRへの取り組みについて



AGCグループが目指す人材マネジメント

AGCグループ “7 Key Principles for People”

AGCグループは、真のグローバル企業として発展し続けるために、私たちが目指す人材マネジメントのあるべき姿を“7 Key Principles for People”として定め、追求していきます。

■ “Look Beyond” の実践

AGCグループは、全従業員にAGCグループビジョンである“Look Beyond”の4つの価値観及び行動原則を共有し実践することを求めます。

■ 多様な人材による組織力の強化

AGCグループは、グループビジョン“Look Beyond”の主旨に共感し、会社の競争力強化のために必要な能力を持つ多様な人材で、私たちのチームを組織します。

■ 成長機会の提供

AGCグループは、自ら学び、向上しようと努力する従業員を尊重し、成長のための機会を提供します。

■ 従業員の働きがいと誇りの追求

AGCグループは、目標の達成に向けて職務に取り組む従業員が、働きがい・誇りを持って活動できる企業グループを目指します。

■ 安心して働ける職場環境の維持

AGCグループは、従業員が日々安心して生き活きと働ける職場環境を維持します。

■ 自由闊達な組織風土の醸成

AGCグループは、職場での自由闊達なコミュニケーションの機会を大切に、より良い組織風土づくりに努めます。

■ 貢献に応じた評価と処遇

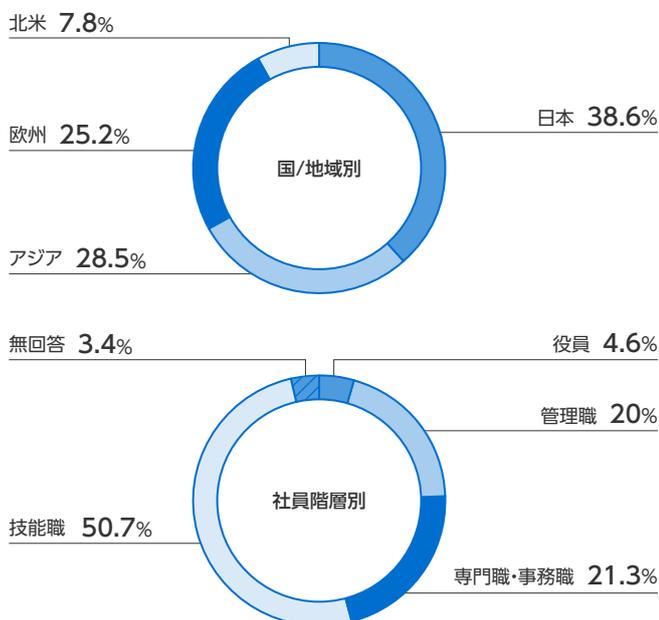
AGCグループは、従業員の会社への貢献を透明なプロセスで公正に評価し、その貢献に応じた適切な処遇を行います。

人権の尊重と適正な労働慣行

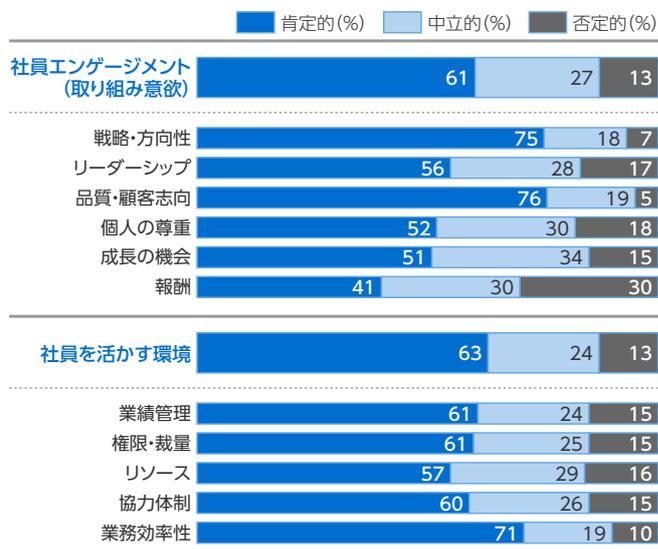
従業員満足(ES)調査の回答状況

	調査対象者数	回答者数	回答率
第1回 (2005年7月)	9,247名	8,435名	91%
第2回 (2007年11月)	40,100名	31,126名	78%
第3回 (2010年11月)	39,055名	31,729名	81%

地域別・従業員階層別の回答者内訳(第3回 ES調査)



カテゴリー別集計結果(第3回 ES調査)



2012年度のAGCグループ表彰一覧と各表彰件数

表彰名	表彰件数
“Look Beyond”表彰	8
優秀品質改善工場賞	6
優秀コスト改善工場賞	7
新ビジネス・新市場開拓賞	9
優秀ビジネスサポートシステム賞	18
発明考案・業績表彰	28
業務改善表彰	21
技術・技能の強化伝承表彰	7
優秀安全成績事業所賞	34
環境貢献賞	8
Diversity表彰	5
Integrity表彰	3
合計	154

AGCグループ表彰件数総数

年度	表彰件数
2010	122
2011	145
2012	154

人権の尊重と適正な労働慣行

育児・介護休業取得状況(AGC旭硝子)

年度	育児休業取得人数	介護休業取得人数
2008	42名(注1)(短期育児休暇2名を含む)	2名
2009	54名(注2)(短期育児休暇2名を含む)	1名
2010	70名(注3)(短期育児休暇2名を含む)	4名(短期介護休暇2名を含む)
2011	63名(注4)(短期育児休暇3名を含む)	1名
2012	82名(注5)(短期育児休暇2名を含む)	4名(短期介護休暇2名を含む)

(注1) 男性3名 (注2) 男性3名 (注3) 男性2名 (注4) 男性8名 (注5) 男性5名

年次有給休暇平均取得率の推移(AGC旭硝子)



(注) 役職者を除く

労働組合データ(AGC旭硝子)

年度	労働組合員数(注1)	平均年齢	平均勤続年数
2008	3,974名	40.1歳	18年4カ月
2009	4,009名	39.2歳	16年11カ月
2010	4,230名	37.9歳	15年4カ月
2011	4,215名	38.1歳	15年6カ月
2012	4,245名	37.4歳	14年6カ月

(注1) AGC旭硝子では、労働協約においてユニオン・ショップ制をとっています

ダイバーシティ(多様性)の活用

地域別従業員数

(2012年12月末現在)

合計	日本・アジア	欧州	北米
49,961名	31,139名(62%)	14,899名(30%)	3,923名(8%)

従業員数(AGC旭硝子) ただし出向社員を除く

(2012年12月末現在)

区分・コース	男性	女性	合計	女性の比率
役職者	1,899名	96名	1,995名	4.8%
一般社員	Eコース(注1)	119名	927名	12.8%
	Sコース(注2)	65名	2,934名	2.2%
	Cコース(注3)	504名	518名	97.3%
	小計	688名	4,379名	15.7%
合計	5,590名	784名	6,374名	12.3%

(注1) Eコース: 所属部門の基幹となり事業戦略や部門強化を担う

(注2) Sコース: 生産技術・技能の習得や伸張、伝承により円滑な生産活動を担う

(注3) Cコース: 正確かつ迅速な事務的業務を担う

ダイバーシティ(多様性)の活用

雇用関連データ (AGC旭硝子)

(2012年12月末現在)

	男性	女性	全体
平均年齢	40.6歳	38.3歳	40.3歳
平均勤続年数	17年1カ月	11年11カ月	16年6カ月
平均時間外労働時間	19.0時間/月(組合員平均)		

新卒の専門職(Eコース)の定期採用における グローバルマネジメント人材(注1)採用実績 (AGC旭硝子)

年度	外国人留学生数	日本人留学生数(注2)
2010	4名	2名
2011	9名	5名
2012	9名	0名

(注1) グローバルでの活躍が期待される人材

(注2) 海外の大学を卒業した日本人

新卒の専門職(Eコース)の定期採用における 女性比率 (AGC旭硝子)

年度	女性比率
2010	10.4%
2011	20.9%
2012	22.9%

継続再雇用率の推移 (AGC旭硝子)

年度	継続再雇用者数	定年退職者数	継続再雇用率
2008	94名	159名	59.1%(注1)
2009	70名	176名	39.8%(注2)
2010	13名	117名	11.1%(注2)
2011	73名	132名	55.3%
2012	82名	122名	67.2%

(注1) 2008年4月から新しい継続再雇用制度を導入した結果、2007年度と比較して、継続再雇用率が高くなりました

(注2) 2008年度秋以降の世界的な景気減退に対して、さまざまな雇用対策を実施したことから、2009年度と2010年度は継続再雇用率が低下しました(一般社員)

障がい者雇用率の推移 (AGC旭硝子)

年度	障がい者数(実数)	雇用率
2008	105名	1.95%
2009	104名	1.97%
2010	105名	1.98%
2011	104名	1.94%
2012	107名	2.00%

従業員教育

AGCモノづくり研修センターの利用人数

利用年度	利用人数
2010	29,664名
2011	24,259名
2012	31,973名

従業員一人あたりの年間研修時間(注1) (AGCグループ 日本)

利用年度	年間研修時間(時間/人)
2010	10.6時間
2011	8.4時間(注2)
2012	11.5時間

(注1) 本研修時間は、AGCモノづくり研修センターで実施した、技術・技能教育、階層教育等を集計しているため、各部門独自の教育、ならびに社外教育の時間は含まれません

(注2) 東日本大震災の影響により研修時間が短くなっています

労働安全衛生

AGCグループ労働安全衛生基本方針

(2001年2月9日制定、2013年3月29日改定)

基本方針

AGCグループは、「安全なくして生産なし」という安全衛生のポリシーの下に、各階層の管理者が自らの安全衛生に対する考え方を明確にし、これを働く部下全員に浸透・共有化させ、一人ひとりが安全衛生活動を推進することを目指します。

労働安全衛生行動指針

私たちは、すべての労働災害・職業性疾病に着目し、安全衛生パフォーマンスの継続的改善を図るために、以下の行動指針に基づき、労働安全衛生活動を積極的に展開します。

1. 仕組みとしてのOHSMSを活かすために、リスクアセスメントのレベルアップを図ります
2. 従来型安全活動をマンネリ化させずに継続して実施します
3. 管理者は部下を家族と思って守り、職場の安全を実現します
設備の本質安全化作業環境の継続的改善を図ります
4. 安全衛生活動はラインの生産活動の一部と認識して実施します
安全衛生担当部署はライン管理を適切にサポートします
5. 安全衛生に関する法令、その他要求事項を順守します
6. 全員で参加し、形式ではなく本音で安全衛生活動を実行します

健康管理ポリシー

(2007年3月1日制定)

AGCグループは、グループビジョン **“Look Beyond”** を合言葉に「世界に価値を創造し続ける」ため、AGCグループの従業員に対する健康管理ポリシーを次のとおり制定する。

健康に関する認識

AGCグループにとって「従業員」は最も重要な資産の一つであり、従業員にとって「健康」は生活の基盤として最も重要な要素の一つである。

会社の支援

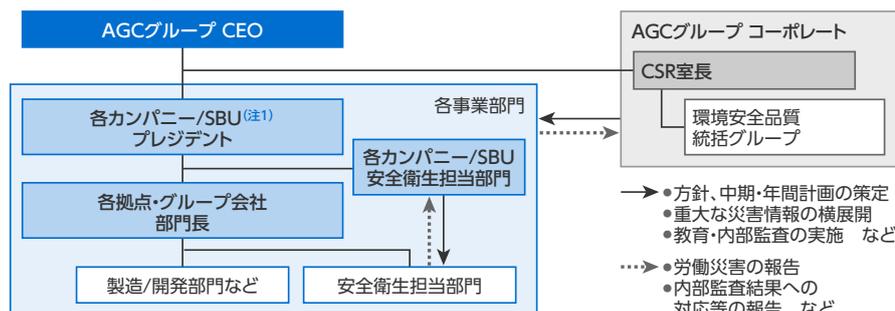
AGCグループは、従業員の心身の健康保持増進に向けた施策を積極的に行い、従業員が個々の能力を十分発揮して会社発展の原動力となるとともに、各従業員の生活が充実したものとなるよう支援する。

従業員の自律

健康の保持増進には従業員の健康に対する意識が不可欠であり、従業員は「自らの健康は自ら守る」意識を持ち、自律した健康管理を行う。

(注) 本ポリシーはAGC旭硝子から浸透を図り、将来的には国内外の関係会社へ展開する予定です

労働安全衛生管理体制



(注1) 戦略事業単位(ストラテジックビジネスユニット)

OHSMS第三者認証取得拠点数

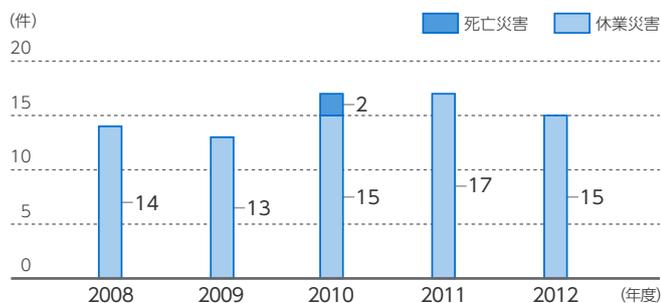
(2012年12月末現在)

所在地など	第三者認証拠点数
AGC旭硝子	2
国内グループ会社	6
アジアグループ会社	12
欧州グループ会社	65
北米グループ会社	0
合計	85

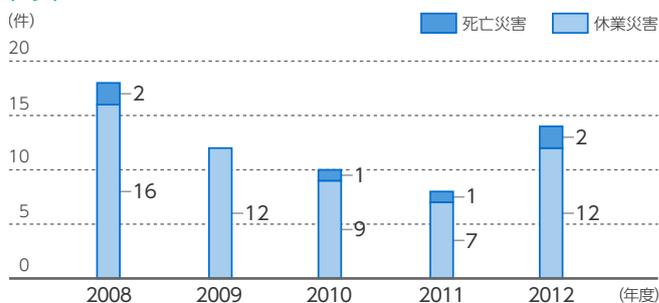
労働安全衛生

労働災害発生件数の推移

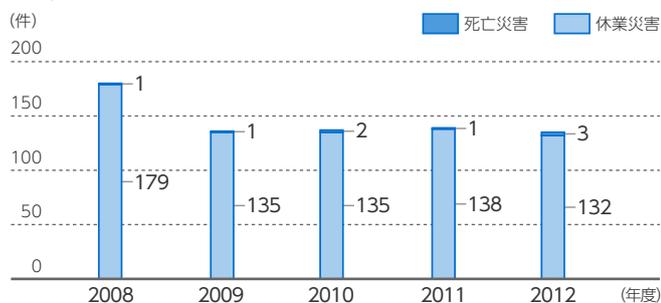
日本



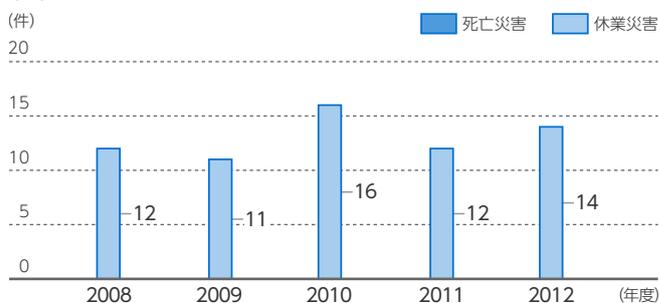
アジア



欧州



北米



(注) 休業災害の判定区分が、日本・アジアと欧州、北米では異なっているため、件数の単純な比較はできません

2012年度の労働災害発生件数(注1)(AGCグループ 日本・アジア)

種類	日本		アジア	合計
		内、主要拠点(注1)		
死亡	0(0)	0(0)	2(1)	2(1)
休業	15(18)	10(3)	12(7)	27(25)
不休業	22(17)	14(7)	4(12)	26(29)
微傷	集計対象外	17(22)	集計対象外	17(22)
合計	54(57)	41(32)	18(20)	72(77)

(注) ()内は2011年度の労働災害発生件数

(注) 協力会社従業員を含む

(注1) AGC旭硝子および一部国内グループ会社

休業災害度数率の推移(AGC旭硝子)



環境マネジメント

AGCグループ環境基本方針

(2001年2月9日制定、2008年6月25日改定)

基本方針

AGCグループは、比較的大量の資源・エネルギーを使用するグループであるとの自覚のもと、グループビジョン **“Look Beyond”** の価値観の一つに「エンバィロメント【環境】」を定めています。

私たちは、限りある資源・エネルギーを有効に使い、気候変動並びに生物多様性をも含む自然環境への影響に配慮し、素材・部材のグローバル優良企業として、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

スローガン

善き地球市民として、一人一人が、環境活動に貢献しよう。

環境行動指針

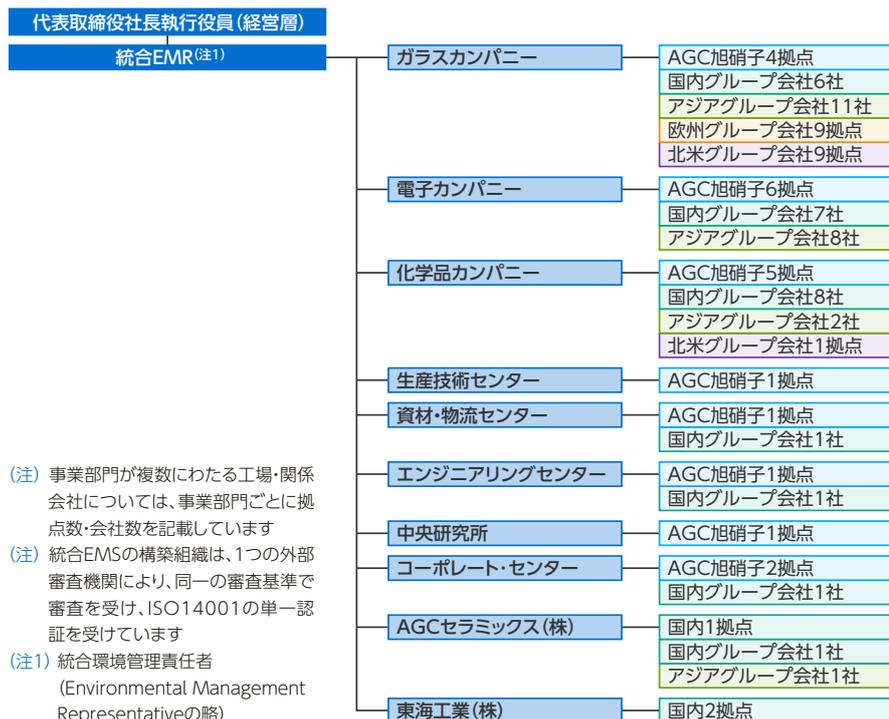
AGCグループは、事業活動全体に渡って、以下の行動指針に基づき、環境活動に取り組みます。

1. 統合環境マネジメントシステムに基づく、継続的な改善に努めます。
2. 環境に関する各種法令・条例・協定等に基づく規制・基準を順守します。
3. 環境負荷低減並びに汚染の予防に取り組みます。
特に、省資源、地球温暖化対策、廃棄物の削減・リサイクル、及び化学物質の適正な管理に関してAGCグループでの目標を設定し、達成に努めまた向上を目指します。
4. 環境影響を考慮した製品・技術・サービス・設備の開発と社会への提供に努めます。
5. 環境活動全般について、社会の正しい理解を得られるように積極的なコミュニケーションに努めます。

本“AGCグループ環境基本方針”は、公開します。

統合環境マネジメントシステム(統合EMS)推進体制図

(2012年12月末現在)



(注) 事業部門が複数にわたる工場・関係会社については、事業部門ごとに拠点数・会社数を記載しています

(注) 統合EMSの構築組織は、1つの外部審査機関により、同一の審査基準で審査を受け、ISO14001の単一認証を受けています

(注1) 統合環境管理責任者
(Environmental Management Representative)の略

製造拠点におけるISO14001認証取得状況

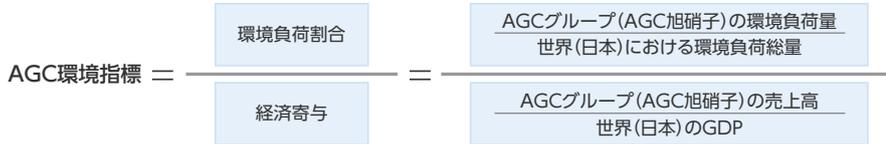
(2012年12月末現在)

所在地など	拠点数	認証拠点数 (うち統合EMS 認証拠点数)
AGC旭硝子	12	12(12)
国内グループ会社	89	74(71)
アジアグループ会社	33	32(29)
欧州グループ会社	75	57(8)
北米グループ会社	33	8(8)
合計	242	183(128)

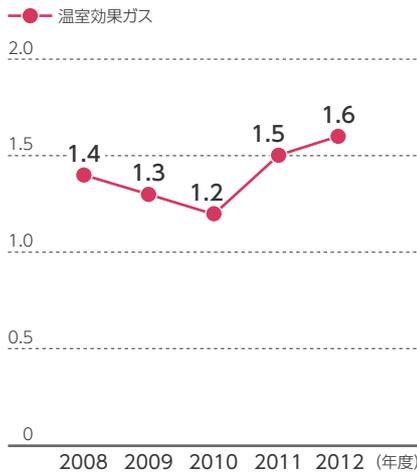
(注) 非製造拠点では、国内外の48拠点でISO14001(統合EMSを含む)の認証を受けています

環境負荷の評価

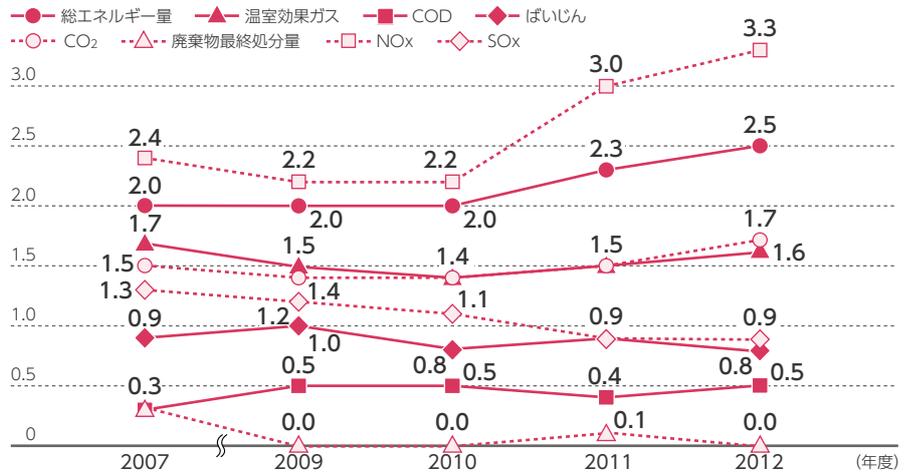
AGC環境指標の算出方法



AGC環境指標推移(AGCグループ)

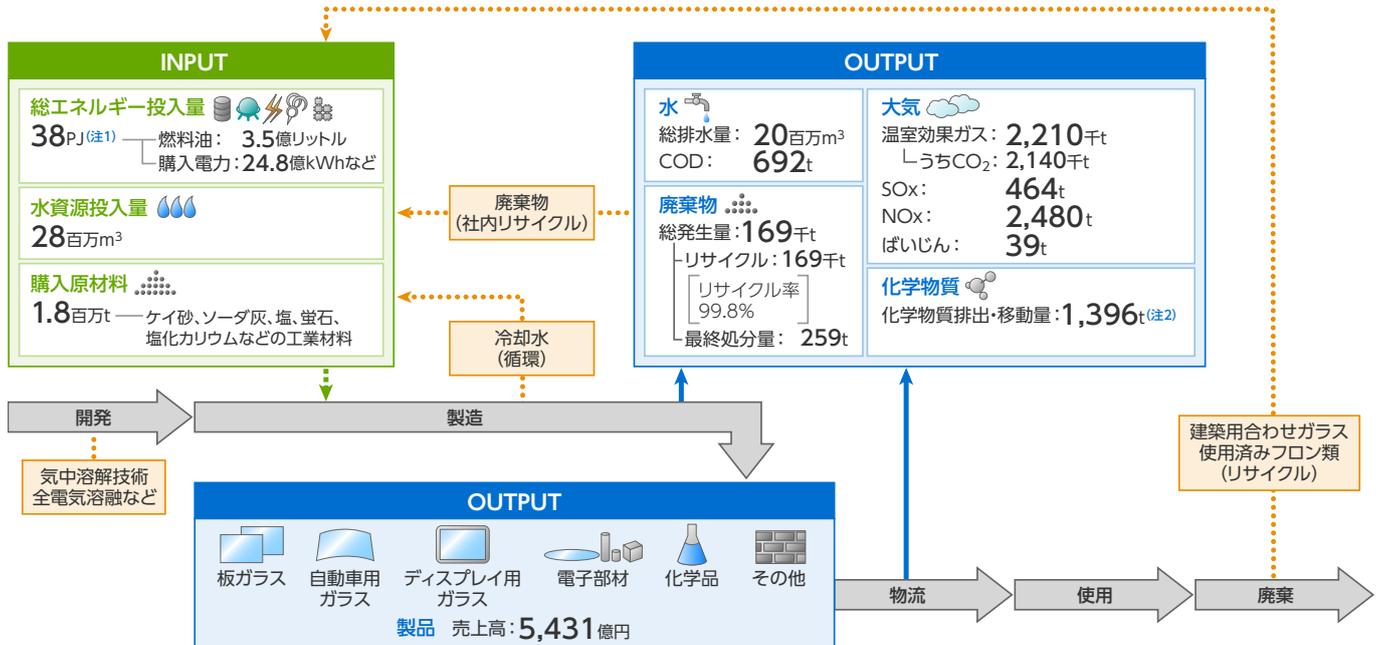


AGC環境指標推移(AGC旭硝子)



(注) 現在は2007年度実績値を基準に改善を図ることにしています

マテリアルバランス(AGC旭硝子)



(注) 四捨五入の関係上、合計数値が合わない場合があります

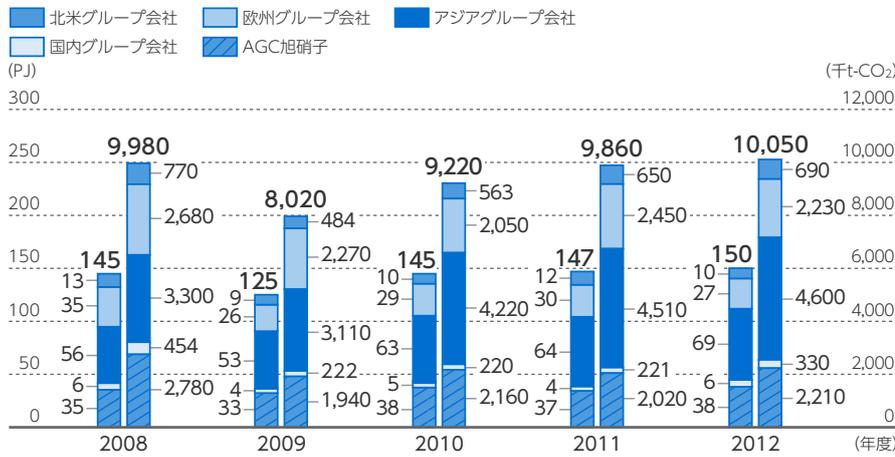
(注) 各種環境データの詳細は、次ページ以降ならびに「CSRホームページ」の環境ページをご参照ください

(注1) PJ(ペタジュール)=10¹⁵(ジュール)

(注2) 2011年度のPRTR法集計数値

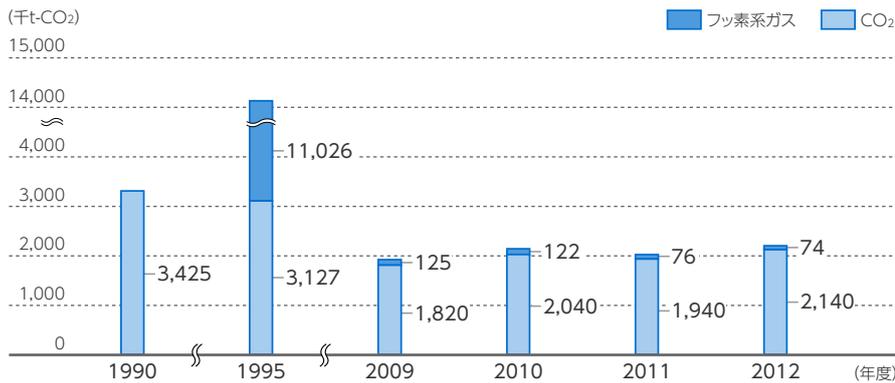
省エネ・温室効果ガス排出量削減

総エネルギー投入量推移(左)・温室効果ガス排出量推移(右)



(注) 四捨五入の関係上、AGCグループの数値は各地域の合計値と必ずしも一致しません

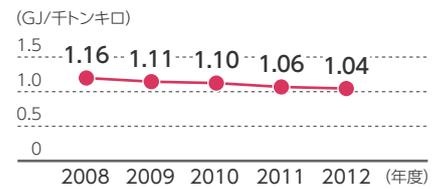
温室効果ガス排出量推移(AGC旭硝子)



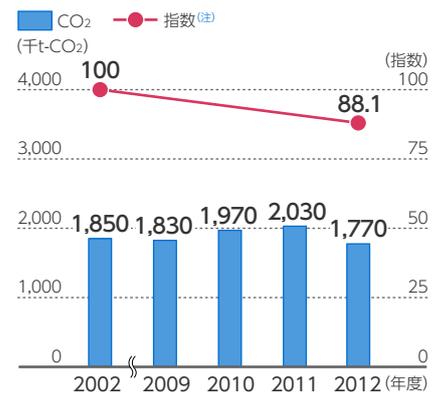
CO₂以外の温室効果ガス排出量 (AGCグループ)

年度	フッ素系ガス
2011	125千t-CO ₂
2012	96千t-CO ₂

物流における消費エネルギー原単位推移 (AGC旭硝子)



CO₂排出量推移 (ガラスカンパニー欧州事業本部)



(注) 2002年のCO₂排出量を基準(100)として指数化

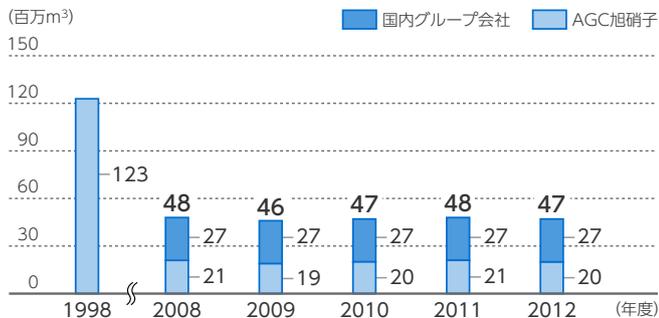
化学物質の適正管理

PRTR法届出対象物質の排出・移動量推移(AGCグループ 日本)

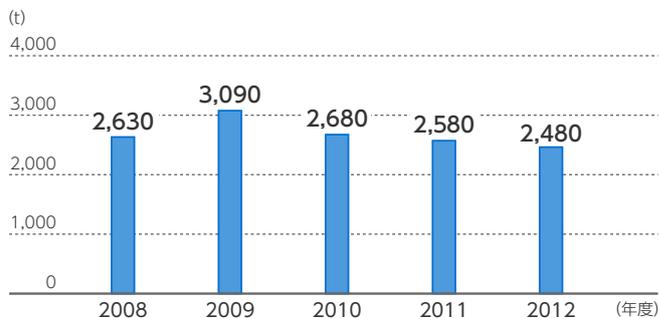


水資源の有効活用

総排水量推移(AGCグループ 日本)



COD排出量推移(AGCグループ)



総排水量推移(ガラスカンパニー欧州事業本部)



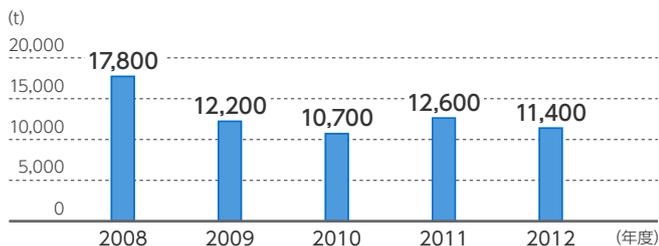
(注) 1998年の総排水量を基準(100)として指数化

AGCグループの取水量推移(AGCグループ 日本)

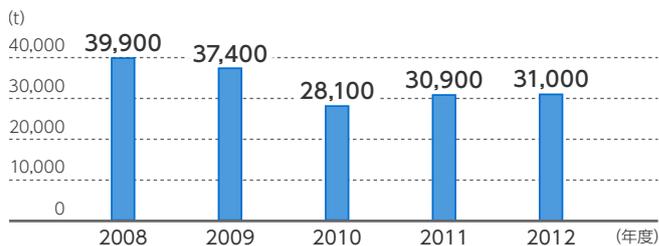


汚染の防止

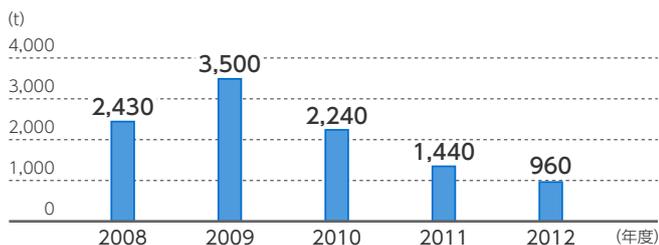
SOx排出量推移(AGCグループ)



NOx排出量推移(AGCグループ)

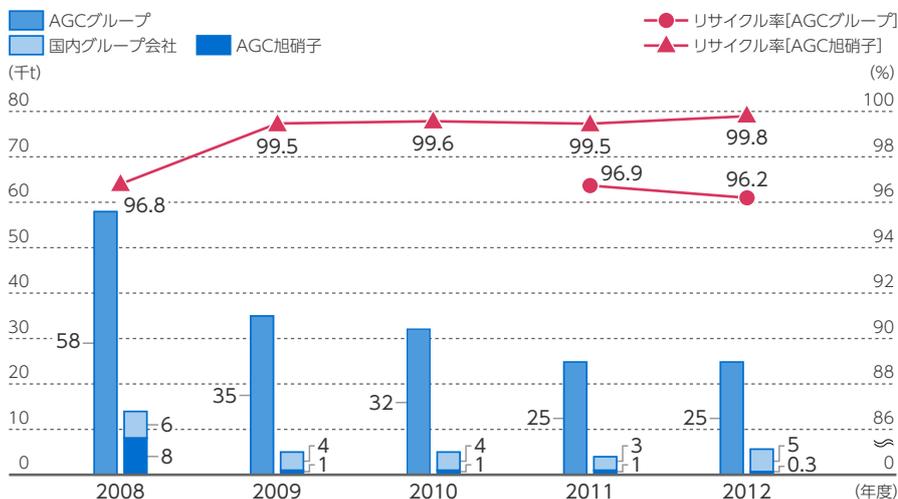


ばいじん排出量推移(AGCグループ)



廃棄物の削減

廃棄物最終処分量およびリサイクル率推移



保安防災

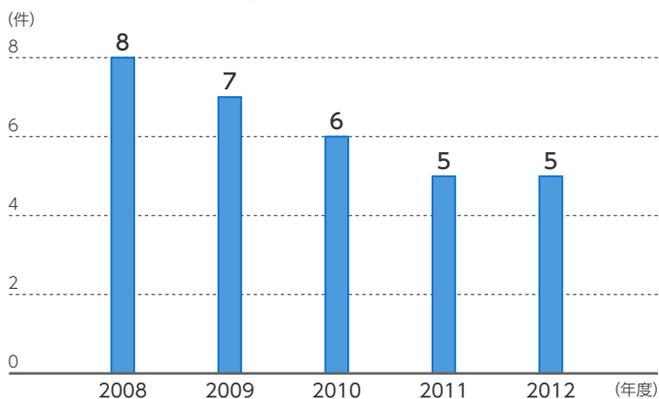
AGCグループ保安防災基本方針

(2003年2月7日制定、2008年3月28日改定)

AGCグループは、“**Look Beyond**”の追求に向け、「保安防災活動に積極的に貢献する事は、地域社会で事業を展開する、責任ある信頼される企業としての基本的責務である」という理念の下に、以下の保安防災管理活動を展開します。

1. 国及び地域の保安防災に関する法令、条例、協定、基準等を遵守します。
2. 保安防災に関する事故・災害を防止するための保安防災管理活動を展開し、継続的な改善に努めます。
3. 地域社会をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションに努めます。

小火の件数推移(AGC旭硝子)



環境会計

集計範囲:AGC旭硝子/対象期間:2012年1月1日~2012年12月31日

環境保全コスト

(百万円)

項目	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	4,722	5,070
内訳 (1)-1 公害防止コスト	567	3,356
(1)-2 地球環境保全コスト	4,155	488
(1)-3 資源循環コスト	0	1,226
(2)上・下流コスト	0	641
(3)管理活動コスト	0	495
(4)研究開発コスト	3,326	11,095
(5)社会活動コスト	0	8
(6)環境損傷対応コスト	0	657
合計	8,048	17,966

(注) 四捨五入の関係上、「合計」欄の数値は掲載数値の合計値と必ずしも一致しません

環境保全効果(注1)

項目	環境負荷 変化量(注2)	単純対前年 変化率	売上高補正後 変化率(注3)
総エネルギー投入量	1PJ	3%	3%
CO ₂ 排出量	200千t	10%	11%
温室効果ガス排出量	190tCO ₂	9%	10%
廃棄物最終処分量	-553t	-68%	-71%
COD排出量	62t	10%	10%
SOx排出量	-10t	-2%	-2%
NOx排出量	40t	2%	2%
ばいじん排出量	-6t	-13%	-14%
上・下流コストに 対応する効果	製品出荷用包装資材リサイクルによる効果		(削減額を下表「経済効果・実質的效果」に反映)
その他の 環境保全効果	輸送その他に関する効果 (当社では集計しておりません)		

(注1) 変化量・変化率:数値がプラスの場合は前年度からの環境負荷の増加を、マイナスの場合は減少を表しています

(注2) 環境負荷変化量=2012年度物質質量-2011年度物質質量

(注3) 売上高補正後変化率=単純対前年変化率/売上高前年度比
AGC旭硝子の売上高前年度比=(2012年度売上高)/(2011年度売上高)
=5,431/5,605=0.96

環境保全対策にともなう経済効果・実質的效果

(百万円)

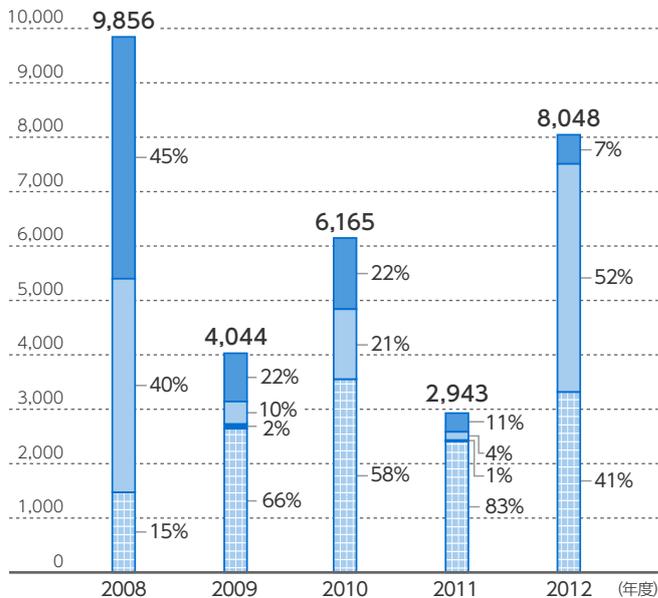
効果の内容	金額	
収益	591(418)	
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減	1,821(1,354)
	省資源またはリサイクルにともなう廃棄物処理の削減	233(284)

(注) ()内は2011年度の金額

環境投資額の構成比推移

■ 公害防止コスト ■ 地球環境保全コスト ■ 資源循環コスト
■ 上・下流コスト ■ 研究開発コスト

(百万円)



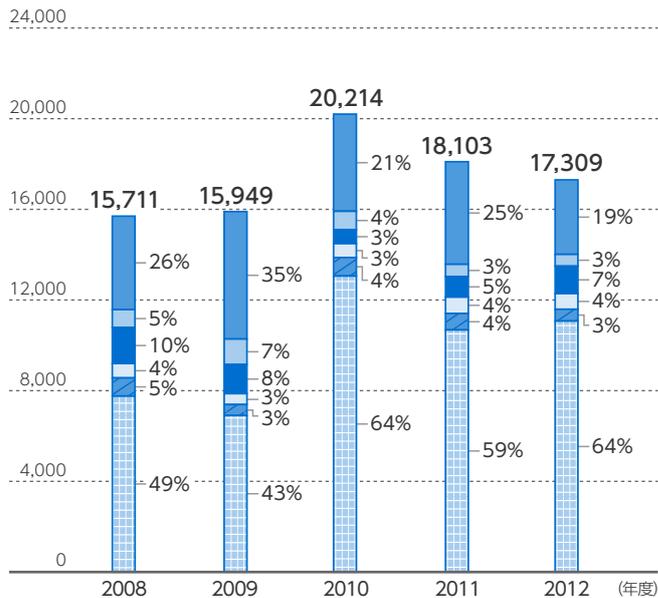
(注) 環境損傷対応コストについては、集計年より費用額と投資額への振り分け方法が異なるため、この集計からは除いています

(注) 四捨五入の関係上、各項目の割合の合計は必ずしも100%にはなりません

環境費用額の構成比推移

■ 公害防止コスト ■ 地球環境保全コスト ■ 資源循環コスト ■ 上・下流コスト
■ 管理活動コスト ■ 研究開発コスト ■ 社会活動コスト

(百万円)

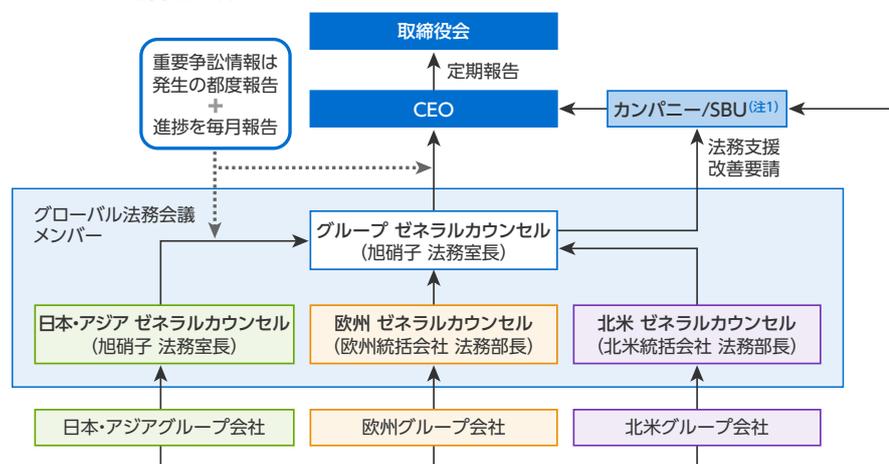


(注) 環境損傷対応コストについては、集計年より費用額と投資額への振り分け方法が異なるため、この集計からは除いています

(注) 四捨五入の関係上、各項目の割合の合計は必ずしも100%にはなりません

公正な事業慣行

グローバル法務管理体制



(注1) 戦略事業単位(ストラテジックビジネスユニット)

独禁法違反防止の諸施策

年度	eラーニング教育受講者	集合形式教育受講者	監査拠点
2012	約5,900名	約2,900名	46グループ会社・部門

情報セキュリティ自己点検実施者数

年度	AGC旭硝子	国内グループ会社	アジアグループ会社	欧州グループ会社	北米グループ会社
2010	約6,100	約3,400	約3,300	約4,400	約1,600
2011	約4,400	約3,700	約3,500	約4,000	約1,500
2012	約4,900	約4,000	約3,800	—(注1)	約900

(注1) 欧州グループ会社では、ITセキュリティポリシー改定にともない未実施

サプライチェーンにおける社会的責任の推進

AGCグループ購買取引基本方針

(2009年制定)

AGCグループは、グループビジョン **“Look Beyond”** の価値観を追求し、また、【AGCグループ企業行動憲章】に基づいて、以下の購買取引基本方針のもと、調達活動を行います。

1. 購買の基本方針

1. オープン&公正取引

購買活動は、常に革新的な技術、製品、サービスを求め、グローバルにオープン&公正・公平に実施します。

2. 関連法令の順守と環境への配慮

購買活動を実行するにあたり、各国の法令と規制を順守するとともに、安全性と環境への適切な配慮を行います。

3. お取引先様とのパートナーシップ

お取引先様とは、長期的な視点で、共により良い製品作りを目指す良きパートナーとして、相互に繁栄を図る取引関係の確立を目指します。そのために、お取引先様との緊密なコミュニケーションを重視し、より強い信頼関係を築くように努力いたします。

4. お取引先様の機密情報・知的財産・資産等の適正管理

購買活動を実行するにあたり、お取引先様の機密情報・知的財産・資産等を適正に管理し、保護いたします。

2. お取引先様の選定方針

お取引先様の評価・選定の基本方針は以下のとおりです。

1. 経営状態が健全であり、安定供給力と生産変動への柔軟な対応力があること。
2. 提供される資材・サービスの品質・価格・納期・技術サービスのレベルが適正であること。

3. お取引先様へのお願い

AGCグループは、『より良い地球・社会の実現』に貢献し、社会全体から信頼され、成長・発展を期待される企業となることを目指しております。CSR(企業の社会的責任)は、基本的には個々の企業がそれぞれ自主的に取り組むべきものですが、AGCグループとしてCSRを遂行していくためには、サプライチェーンを構成するお取引先様におけるCSR推進が不可欠であり、お取引先様と共に、AGCグループの取り組みを進めて参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

AGCグループの取り組みのうち、お取引先様にも関係の深い事項は以下のとおりです。

1. 各国の法令を順守し、公正取引、安全・環境へ配慮した良質の製品・サービスの提供を重視していること。
2. 情報管理、知的財産管理が適正であること。
3. 強制労働、児童労働を認めず、人権侵害に加担しないこと。
4. 環境保全及び保安防災に取り組んでいること。
5. 安全で健康的な職場環境を確保していること。

お客様満足(CS)

2012年度のCS関連研修参加人数(AGCグループ 日本・アジア)

セミナー名	対象	内容	開催回数		参加人数	
			国内	海外	国内	海外
CS対話会	主に役職者	CSの視点を入れ込んだ経営について	5回	3回	28名	15名
CSセミナーほか	役職者・一般社員	CSの基本と実践のポイント	12回	2回	325名	40名

品質保証

AGCグループ品質基本方針

(2004年9月8日制定、2013年3月29日改定)

基本方針

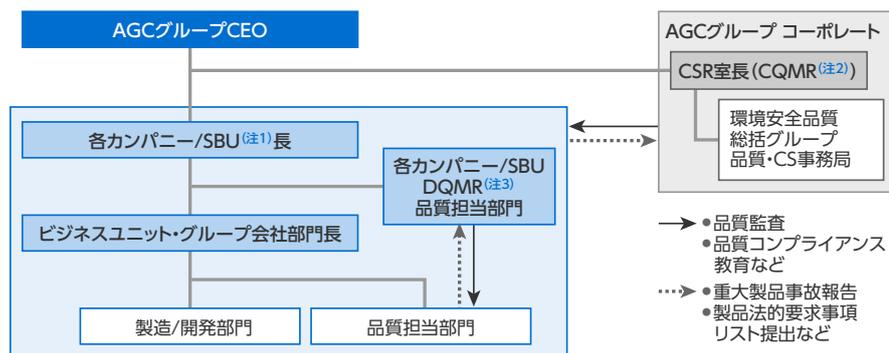
AGCグループは、“**Look Beyond**”の価値観の一つである「イノベーション&オペレーショナルエクセレンス」を追求し、お客様が期待する価値を創造し続けます。

品質行動指針

私たちは、「CSの視点を日々の仕事に入れ込む」を仕事の基本とし、以下の行動指針に基づき、お客様をはじめとするステークホルダーから信頼を得られるよう行動します。

1. 法令・規制およびお客様の要求事項に適合した製品およびサービスを提供します。
2. 製品およびサービスの安全性と環境への適切な配慮を含んだ品質を確保し、向上させます。
3. 全員が参加して品質マネジメントの有効性と効率を継続的に改善し、一人一人の仕事の価値の向上に努めます。
4. 以上を確実なものにするために、方針・目標を定め、PDCAを回します。

品質管理体制



(注1) 戦略事業単位(ストラテジックビジネスユニット)

(注2) CQMR(Corporate Quality Management Representative: コーポレート品質管理責任者)

(注3) DQMR(Division Quality Management Representative: 部門品質管理責任者)

ISO9001および ISO/TS16949(注1) 認証取得状況

(2012年12月末現在)

所在地	認証組織数
日本	31
アジア	23
欧州	65
北米	13
合計	132

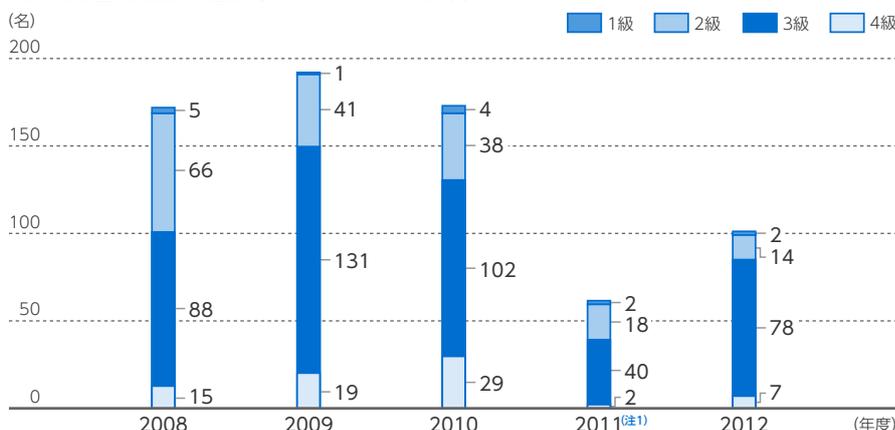
(注) 認証組織内のAGCグループ従業員カバー率
81.3%

(注1) 自動車部品のグローバル調達基準を満たす自動車業界向けの品質マネジメントシステム規格

重大製品事故報告件数の推移 (AGCグループ 日本)

年度	件数
2008	3
2009	0
2010	0
2011	0
2012	1

QC検定合格者数の推移(AGCグループ 日本)



(注1) 東日本大震災のためQC検定の開催が1回のみとなり、合格者数が2010年度よりも少なくなっています

社会貢献活動

AGCグループ社会貢献基本方針

(2010年2月10日制定)

AGCグループは、「AGCグループ企業行動憲章」において、「善き企業市民として、その社会と地域に対する責任を果たす」ことを宣言しています。この理念を実現するため、私たちは、3つの重点分野を中心に、積極的に社会貢献活動を行います。

重点分野

1. 人づくり

将来を見据えて価値を創造する私たちは、未来を担う子どもたちが夢に向かって成長できるよう支援します。

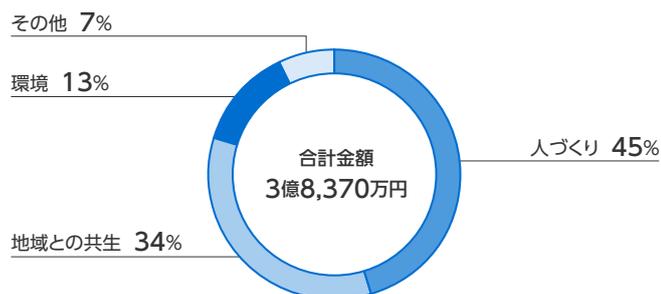
2. 地域との共生

地域社会の一員である私たちは、その持続的な発展に貢献します。

3. 自然環境への貢献

グローバルに事業を行う私たちは、地球規模の環境問題の解決に貢献します。

2012年度の社会貢献活動支出額



(注) 四捨五入の関係上、割合の合計は100%にはなりません

2012年度の社会貢献活動の支出額内訳

項目	金額	割合
人づくり	1億7,290万円	45%
地域との共生	1億3,230万円	34%
環境	5,060万円	13%
その他	2,790万円	7%

社会貢献支出額の合計額推移

年度	金額
2010	5億2,500万円
2011(注1)	8億1,400万円
2012	3億8,370万円

(注1) 東日本大震災に関する支出額を計上しているため、他の年度よりも金額が多くなっています

報告対象範囲

報告対象期間

2012年度(2012年1月~12月)

一部の情報は2011年度以前および2013年度の内容を含みます。

報告対象組織

旭硝子(株)および連結対象の国内外グループ会社202社

主な表記と報告対象

- AGCグループ 上記の「報告対象組織」と同様
- AGCグループ 日本 旭硝子(株)を含む国内のグループ会社
- AGC旭硝子/当社 旭硝子(株)(単独)
- アジアグループ会社 AGCグループ 日本を除くアジアのグループ会社

旭硝子株式会社

www.agc-group.com

〒100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1
CSR室

電話:03(3218)5282 FAX:03(3218)7801
e-mail:csr-info@agc.com

2013年5月発行(次回発行予定:2014年5月)